

パネルセッション(企画)

南の星小学校の外国につながる子供の指導

—特別な支援が必要な子供の現状と課題—

杉本 真弓・澤根 千英子 (浜松市立南の星小学校)

1. 浜松市立南の星小学校の概要

本校は浜松市の南に位置し、平成23年4月に浜松市立五島小学校と浜松市立遠州浜小学校が統合し、浜松市の107校目の小学校として開校した。

学区の遠州浜地区には公営住宅があり、多くの外国人家族が暮らしている。平成28年度の本校の児童数は460人で、その内、外国籍の子供が83人、外国につながる日本国籍の子供が18人在籍している。市内で最も多くの外国につながる子供たちが在籍する学校であり、その割合は22%である。子供たちの国籍は南米系のブラジルやペルーが多いが、近年はアジア系の子供たちも増え、本年度は7か国と多国籍化している。

2. 本校の外国人支援体制と指導

2.1 外国人児童の学習面での課題

日本生まれの子供も多く、日常会話に困る子供は少ない。しかし学習言語は十分ではなく在籍学級の授業が理解できない子供も多い。

2.2 外国人児童の支援のネットワーク

外国につながる子供が多いことから支援体制は充実していると言える。加配教員が中心となり校内の支援体制のコーディネートを行っている。子供一人一人に応じた支援を行うための実態把握や支援の成果を検証することが課題である。

2.3 特別な教育課程を実施している子供と指導の実際

本年度、特別な教育課程を実施している子供の数は27人である。加えて、さらに教員が実施の対象と考える子供たちが25人いる。こうした子供たちが中高学年に多いことも課題である。

3. 外国につながる子供の指導の課題と特別な支援が必要な子供の現状と課題

3.1 日本語力の把握と結果の活用

3.2 在籍学級における支援の工夫、学級担任との連携

3.3 発達に課題をもつ児童の指導

3.4 保護者の子供理解と発達支援教育への理解